



きらめき亀山21

きらめき亀山21企画会議
amani@helen.ocn.ne.jp

第56号

2005年11月21日発行

東海道シンポジウム「大阪・守口宿大会」

11月12日(土)大阪府の守口市において東海道シンポジウム「大阪・守口宿大会」が開催された。宿場の賑い復活一座から3名と関の町並み保存会の皆さんとともに参加した。東海道は53次と思われており、57次という耳新しいが京都の3条大橋よりつなげて、伏見、淀、枚方、守口、大阪の京橋までを昔は京街道、後に江戸幕府が公称して東海道になったといわれており、守口宿は立派な57番目の宿である。年に一度東海道の各宿場の仲間が集まる「東海道シンポジウム」はこの歴史の道、東海道を介して各宿場の仲間がいろいろの知恵や情報を共有してまちづくりにつなげていこうと毎年、場所を変えて開催されている。

午後からの開催に少し時間があつたので守口の宿を歩いてみた。ぼつりぼつりと残る古い建物にやはり街道沿いということがわかる。この街道は淀川の堤防の上に築かれたもので、豊臣秀吉の時代に作られ「文禄堤」と呼ばれる。この「文禄堤」は守口宿の宝であるようだった。立ち寄った写真屋さんが昔の建物を維持されながら営業されているのに感心してお話を聞く。



「外壁の虫小窓は塗り替えている。お金はかかるがこのまま使っていきたい」そして、向かいのマンションを見ると手すりのデザインが虫小窓・・・屋根は瓦葺、やはり東海道に住んでいるという思いを持ち続けている人々はいらうと思うとうれしくなる。

シンポジウムは地元の伝統的な踊りに始まり、各方面の歴史家の守口宿にまつわるお話を聞く。ここでやはり秀吉の時代の「文禄堤」について話が出る。

続いて各宿場の紹介、57宿の半分ぐらいの宿場の集まりであつたが各宿それぞれ名前を呼ばれ立ち上がる。最後に来年の開催地、阪之下宿(亀山の坂下)の紹介があり、阪之下宿の代表が来年に向けてアピールする。

この大会は二部構成で 夕方からは交流会と称してステージにて各宿場の特色を出しながら紹介する。寸劇があつたり、お国柄があつて面白いが踊りが多い。皆が参加して踊りの輪ができる、みようみまねで参加しながら、仲間になった気がしてくる。踊りは江州音頭だった。亀山宿は、関宿、阪之下宿と一緒に紹介された。関宿の皆さんの鈴鹿馬子唄に舞台は盛り上げられ、さすが先輩と感心する。関宿の皆さんは毎年参加され、ほかの宿場の皆さんともお顔なじみがあるようである。桑名の宿場の人も七夕のように年に一度会うだけだが、それで楽しいし、楽しみであるといわれた。亀山宿も正式には今回が初めてであつたが、各宿場の様子を知ることにもなり面白いシンポジウムであつた。

宿場の賑い復活一座 中浦豊子

来年は坂下で開催決定

守口での大会は踊りや歌と盛り上げは上手でした。でも坂下ではもっと地に着いた山里らしいイベントにしたらと思います。往時の旅人がどんな思いで京に向かう険しい道を歩んだのか、静けさの中の素朴なもてなしが似合っているかなと思います。しし鍋や鹿のバーベキューなんかも楽しそうです。初めて参加した一人として感じました。 伊藤幸一



来年は亀山市 坂下へおいでください

目次:

東海道シンポジウム 大阪守口宿大会	1
市民交流の日	2
多文化共生講演会 市民交流会 実行委員会	3
今後の行事予定 宿賑一座から	4



12月3日(土)9:30~
ヒューマンフェスタ亀山
青少年研修センター
ジャンギャスライトさん
講演会

「心の扉を開けてみよう!
出会いがそこに・・・」

2005年12月21日(水)
19:30~21:30
「市民交流の日」
クリスマスも近いです
食べ物、飲み物を持ち
寄って
「しゃべり場」を開催

参加資格なし
どなたでもご参加いた
だけます。
ぜひご参加ください。



市民交流の日 2005年10月21日の話し合い 出席者計33名内外国人10名

メインテーマ「外国人と共に暮らすには・・・」

司会：前は様々の問題点を出示していただきました。今晩は共に暮らすのにこうしたらもっと良くなる等のアイデアの話をしましょう。

「きらめき亀山21」の定例に参加してからコミュニケーションが重要とわかり外国人との挨拶からはじめています。外国人にはメモとペンを持っていると聞かれたときに非常に説明しやすい。地図も書ける。自分から進んで話しかけることが大切。

15年前にブラジルから来ました。ブラジルで長年身についたことはなかなか抜けません。態度が変だと思われるかもしれません。でも外国育ちだとわかると理解してくれます。

ペルーから来ました。友達のことを話します。ある女性が急病で病院にいきました。そしたら即入院し手術をしなければならなくなりました。言葉がわからないので恐がって医師との信頼感がもてませんでした。自分もどうしていいかわからず前回の市民交流の日の場で病院に通訳がほしいとのことを思い出し市役所に来ました。通訳を依頼し医療センターに行ってもらい無事に手術が終わりよい結果になりました。

司会：言葉がわからない外国での医療は通訳チームをつくりませんか。災害のときにも重要です。

こんな話が出たのだから有償の通訳を行政に提案したらどうか。命にかかわることで必要だ。

署名運動をしたらどうだろう。

前にいた市では市長と市民と外国人とのミーティングがあった。亀山では外国人は多いけど働いていて忙しい人が多い。気軽に子どもの相談などできる場があれば町の活性化にもなる。

年一度の市長との懇談会を利用したらどうだろう。外国人と市長の語る会をやったらいい。

30カ国の外国人が住んでいる亀山だから日本語の可否やどこまでボランティアが動けるか調べて下地を作らないと。自分から進んでやるという動きが大切。お互いの助け合いだから。

まず先頭に立って動こうじゃないか。市長と話すことをはじめたら。

企業とかかわることが必要では。企業の担当にグループとして要望したら。

外国人が増えていることをデータでしめして市長と語る会で要望したらどうか。

日本で生まれる子どもが増えている。これからどうしていくかが大きな問題になってくる。

各国の料理教室とかその国特有の手芸とかコミュニケーションの前に雰囲気を作ってはどうか。

子どもは日本の子どもと遊ばせれば仲良くなれる。交流にもなる。

鈴鹿では電話利用の通訳制度がある。

国勢調査で通訳をしたが外国人の皆さんは友好的だった。一人一人の態度が大切。

司会：提案の中で何をまず始めますか？

目標を決めたプロジェクトをつくとどうか。

通訳ネット・市長と語る会をもって提案したらどうか。：医療センターの通訳など動ける通訳をふやす。

日本語を話せる外国人を調査してはどうか。

司会：次の機会でもう一度煮詰めます。



「しゃべり場KIFAMIGO」 始まる

東町ねこの館にて



外国の方が気楽に立ち寄って、いろんな情報や困りごとを相談できる場を定期的を開いたらどうだろう・・・市民レベルでできることから始めてみよう。純粋に民間として発足した市民のショップ「ねこの館」を活用した企画が始まりました。毎月第1と第3日曜の午後にKIFAのメンバーが詰めています。飲み物や軽食も持ち込んでの文字通りしゃべり場です。インターネットも自由に使えてパソコン同士なら祖国との無料通話も可能になりました。





多文化共生講演会が開催されました

10月29日(土)、亀山市総合保健福祉センター「あいあい」でKIFA主催の多文化共生講演会が開かれました。講師にI I H O E 研究主幹、N P O 法人多文化共生センター理事 田村 太郎氏を迎え『地域社会の中での多文化共生のあり方～担うべきそれぞれの役割～』と題して多くの参加者のなか開かれました。まず、なぜ世界的に国境を越えて人の移動が起こるのかその背景について、賃金の比較・人口の増大・人口の偏り等の面から話されました。また日本で暮らす外国人が直面する数々の課題を示し、地域社会に参画する在住外国人を共に強みを発揮しあえる存在として、発想の転換をと提言されました。そしてN P O (非営利組織) やN G O (非政府組織) の役割の増大と多文化共生社会の担い手として公共の課題に市民の積極的な取組みをと強調されました。

最後に2008年にはISO26000が施行され、企業の社会的責任(C S R)が強く求められ、人の多様性がキーワードとなるだろうし、世界的にS R Iによる企業の選抜化が進むだろうと警告されました。

『多文化共生社会とは、地域に暮らす誰もが自分らしく生きることができる社会である。』これが田村さんの結びの言葉でした。

講演の要旨から

少子高齢化とは日本だけのこと

アジアでは人口増加が続いています。その背景には先進国への農業工業生産品を供給するための都市への人口集中があります。あふれた労働力はより給料の高い先進国へ移動し先進国はその安い労働力を利用しています。これは労働力が輸出となっているともいえます。

便利な生活を維持する外国人労働力

コンビニのおにぎりひとつ例にとっても深夜早朝に働く外国人労働者がいないと供給できないのが実態です。需要があるから供給がある、それが日本における外国人労働者の増加要因で今後も、ますます増えてくるでしょう。

仕送りから定住へ

外国人労働者は稼いだら帰国する時代は過去のものになり今では家族を呼び寄せ日本で定住することが普通になってきました。その稼ぎを自分の家族のために日本で消費するのです。外国人も日本の経済発展に貢献する消費市場となっています。

これから始まる多民族社会の日本

過去に私たちが体験しなかった多民族の社会がすでに始まろうとしています。今こそどのように共生(共創)を始めるか、それが問われている時なのです。



第6回市民交流会実行委員会 2006年2月26日開催 於：関小学校 メインテーマ ええとこ残そう、未来の亀山

実行委員長 鈴木壽一さん

副実行委員長 服部亜樹さん

会計 田中一弘さん 小菅まみさん

書記 福島長幹さん 伊藤幸一さん

エコ推進担当 浅田正雄さん他 自然を愛する会

来年2月26日の市民交流会の準備が進んでいます。

既に4回の実行委員会を終え内容の構想を討議しています。

今回は関地区からの委員さんも多く参加し新しい視点での交流会になりそうです。

次回実行委員会は11月30日(水) 19:30~

市役所3F 大会議室にて



宿場の賑わい復活一座



旧東海道筋に掲げられた屋号看板、もう4年も経つと傷んできました。前はほとんど無料の外材を使ったことも原因です。今回ヒノキ材で作りがえをはじめました。まずは一番古い西町万町から順次かけかえをしようと材料の削り作業をしました。厚みも前回より厚く今度はより長持ちしそうです。写真は作業中の宿場の賑わい復活一座のメンバー菅内町の豊田さん作業場にて



中浦豊子リーダーに三重県より産業功労者表彰

11月17日三重県知事より宿場の賑わい復活一座中浦リーダーに産業功労者表彰が授与されました。建築士としての見識を活かし地域のまちづくりに貢献し旧東海道筋の家々に江戸時代の屋号看板を掲げる等の歴史的な価値保存と魅力の発信に尽力したことによるものです。

今後の行事予定

イベント名	日時	場所
ぽっかぽか 聖母の家学園見学会	11月23日(水)	四日市市 聖母の家
ねこの館フリーマーケット	11月27日(日) 10:00~19:00	東町1丁目 ねこの館
第6回市民交流会第5回実行委員会	11月30日(水) 19:30~21:30	市役所3階
ぽっかぽかの会お話し会	12月1日(木) 11:00~14:00	浜野宅
「きらめき亀山21」企画会議	12月1日(木) 19:30~21:30	市役所3階 理事者控室
ぽっかぽかの会 (社)四季の里との勉強会	12月2日(金) 10:00~	あいあい
ヒューマンフェスタ亀山	12月3日(土) 9:30~13:45	青少年研修センター
「市橋隆雄さんを支える会」 年末支援募金	12月3-4日 (土日)13:00~	ショッピングセンター エコー
しゃべりばKIFAMIGO	12月4日(日) 13:00~	東町1丁目 ねこの館
自然を愛する会 定例会	12月7日(水) 19:00~21:00	あいあい2階 研修室
招き猫の会 定例会	12月5日(月) 18:00~20:00	東町1丁目 ねこの館
亀山国際交流の会 定例会	12月13日(火) 19:30~	市役所3階 理事者控室
ぽっかぽかの会 お菓子作り教室	12月15日(木) 9:30~14:00	あいあい 栄養指導室
ぽっかぽかの会 定例会	12月16日(金) 19:00~	あいあい
しゃべりばKIFAMIGO	12月18日(日) 13:00~	東町1丁目 ねこの館
宿場の賑わい復活一座 定例会	12月16日(金) 19:30~	未定 (市役所以外で行う)
定例市民交流の日	12月21日(水) 19:30~21:30	職員会館2F

編集作成：「きらめき亀山21」企画会議

この月刊新聞は毎月21日の交流会に配布され市役所市民活動コーナーや各公共施設でも入手できます。

EMAIL amani@helen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~kameyama/kirameki/>

市民ネット <http://www6.ocn.ne.jp/~kameyama/> マッホー亀山 <http://www.za.ztv.ne.jp/qtuh7aip/shimin/>

「きらめき亀山21」メーリングリスト 100名以上の参加者です。携帯でもOK

加入は「きらめき亀山21」HPより。または「きらめき亀山21」広報伊藤までご連絡ください。